

編纂編集及び本づくりのノウハウがここにある

大学史の周辺

武田 秀司／著

(発行・発売元) 一般社団法人 大学自慢

〒102-0082 東京都千代田区一番町13番地12-201

TEL: 090-8454-6868(米田) E-mail: daigakujinryoku@yahoo.co.jp

定価1,650円(本体1,500円)+送料・手数料350円

※送本ご希望の方は、直接発売元に送料を添えて代金(本代及び送料)を振り込み、送本先をE-mailで連絡して購読申し込みしてください。

振込口座: りそな銀行 九段支店(普通)1445764

「いったいどうして『50年史』とか『100年史』とかを出さなければならないのだろうか。」

勤務大学が創立記念祭や何十周年式を迎えるときにそう自問した人は少なくないだろう。そのうちにどこかで企画が立てられ、歴史畑の教員の人たちが編集委員に指名され、数年間資料集めに追いまわられているらしい。

年史の編纂という事業は、決してお祭りやお化粧づくりの活動ではなくなった。あえて言えばそれぞれの大学の死活に連なる活動になってきた。大学が変わったからではない。大学の内部状況と大学に対する外からの要求とが変わって来たからである。

外からの要求を見ると、大学改革と水準保証という要求がある。当大学固有の資料を保存し、それを基礎に学問的に質の高い沿革史を出すことは、「教育・研究の質保証」を示す不可欠の条件と見られるようになって来た。公益財団法人大学基準協会は、認証評価の説明の際にこのことを強調するようになった。

大学にとってさらに切実なのは、「建学の理念」を明らかにせよ、という要求である。

少子化のもと、多くの大学が浮沈の境に置かれる日がいずれやってくる。沿革史を出すことなどかつては無用の引出物を用意する事業だと思われていた。だがそれは大学の体面にこだわる活動ではなく、今や未来に関わる事業である。

——巻頭言から抜粋

目次概要

◇巻頭言◇ 大学沿革史—その刊行にはどのような意味があるのか
東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授 寺崎 昌男

序論

私立高等教育機関関係法制度の変遷—自校史編纂の糧として—

I 近代法治国家構築と制度基盤づくり

1 「學制」と私立学校

2 「教育令」と私立学校

II 高等教育制度構築の道程と確立

1 「私立學校令」と私立学校

2 「専門學校令」と私立学校

3 「大學令」と私立学校

III 教育の瓦解と再構築

1 戦時体制と私立学校

2 新制度と私立学校

IV むすびにかえて

大学史編纂の現代史的な意義

I 大学史を編纂する

II 大学史の構成・形態

III 編纂組織の編成

IV 近現代史と大学史の関連

V 自校史編纂と自校史教育

VI 自校史編纂とアーカイヴズ

まとめとして

大学史 沿革史 自校史よもやまばなし
—年史・史誌の編集、本づくりの経験から—

第1話 活字ばなれ 文字ばなれ

第2話 ものづくり—活版と写植

第3話 ゲラ刷りと校正刷り

第4話 赤ペンと校正—校正 畏るべし

第5話 書体のはなし

第6話 判型のはなし

第7話 ナンバー(ナンバーリング)

第8話 原稿と編集

第9話 資料公開と資料集

第10話 資料と文書管理

第11話 オーラルヒストリー

第12話 本とデジタルデータ

第13話 学外専門家と自校史

第14話 大学ブランドと自校史

第15話 自校史教育と自校史

第16話 内部質保証と自校史

第17話 建学の精神と自校史

第18話 ディスクローズと自校史

第19話 自校史のかたち

第20話 周年と自校史

第21話 まとめ

附 録 オンライン授業(WEB授業)—感染症蔓延に思う—